

第1回宗像市地域公共交通会議会議録

日 時	平成27年11月13日(金) 15時00分～16時30分
場 所	市役所本館第2委員会室
出席者	【委員】石松豊幸、西 正博(原代理)、大枝良直、福澤好展、 森 正彦、児嶋二三生、原口 貢、飛鷹 修、 早川正史、貫 一字、原田勝子、平田恵美、 峯 久子 【事務局】力丸課長、吉原参事、松山
報 告	1) ふれあいバス・コミュニティバスの利用状況等について
議 題	1) バス利用者アンケートについて 2) 無料乗車キャンペーンについて 3) 公共交通網形成計画の策定及び活性化再生法協議会の立ち上げについて
その他	今後のスケジュール等について

区分	発言内容等
事務局	1 開会の挨拶 2 新委員委嘱状の交付 3 配布資料の説明 4 傍聴要領の説明
委員	傍聴要領について承認
事務局	会長の選任について石松委員(宗像市総務部長)を提案させていただきます。 いかがでしょうか。
委員	承認
会長	それでは、本日から会長を務めさせていただくことになりました石松でございます。 この協議会につきましては、宗像市民の、特に交通弱者を初めとした公共交通の利便性の向上、これに直結したいろいろな問題を審議していただく場だと考えております。 皆さまそれぞれのお立場で、忌憚のない意見を、この場で発していただきますことをお願い申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。 どうぞよろしく願いいたします
事務局	報告事項 1) ふれあいバス・コミュニティバスの利用状況等について 説明
原代理	平成25年のふれあいバスの収入に広告収入が計上されているがこれはどんなものか。
事務局	36人乗りのふれあいバスについては車内に広告枠を設けており、平成25年度は

	「サンリブ」より広告掲載の申し出があったことから収入を計上している。
原口委員	ふれあいバスについて、乗車人数は年々増加しているが、収入について減少しているところがある。どういうことか。
事務局	高齢者の免許証返納の支援として、二万円分のふれあいバス、コミュニティバスの回数券を配布しており、そちらについて収入として挙がっていないためである。来年度以降、予定では収入として計上していく。
早川委員	ふれあいバス、コミュニティバスについて事務局が感じている課題等があれば教えてほしい。私たちが協議するうえで参考になる。
事務局	赤字補てん額が年々増加しており、持続可能な公共交通のための計画等が必要ではないかと感じている。
飛鷹委員	広告収入について、平成 25 年度は挙がっているが、その他の年度では広告収入がない。何か取組みをしているか。
事務局	広報での周知や商店等への働きかけを行っている。ただし、PR 不足、また広告料について再検討が必要ではないかと考えている。今後協議させていただき、広告収入増のため努力していきたい。
事務局	議題 1) バス利用者アンケートについて 説明
福澤委員	運賃の件で問い合わせが多いのが、増税の際の料金変更である。なにか方針はあるか。
事務局	8%の際に、本会議でも検討いただき、値上げ幅が円単位であることなどから10%の際に検討するという方針を出している。まずはアンケート等で利用者がどのように感じているかを調査するなど、現状を把握したいと考えている。
原口委員	設問が多すぎるのではないか。片面1枚くらいにできないか。
事務局	例年行っているものであり、結果の変遷も確認したい。ただし、レイアウト等検討してみる。
早川委員	宮崎での事故の影響などで、今後高齢者の免許証の保持が難しくなるのではと考えている。アンケートの設問に今は利用していないが、今後利用するかなどの設問を追加すると今後の事業に役立つのでは。
事務局	ご意見として承る。
平田委員	以前、利用者以外の方へのアンケートも実施したと思うが、そういったことを考えてはどうか。
事務局	おっしゃるとおり以前行ったことがあるが、利用者以外のアンケートでは本当のニーズを掴むことは難しい。 しかし、今後のニーズを掴むのも大切であるという認識はある。来年度以降公共交通の計画策定を予定しており、その中で利用者以外へのアンケートなど、多くの方々の意見を集めることができるよう検討していく。
貫委員	アンケート単独ではなく、別のイベントの際に、粗品等をつけて行うと効果的で

	はないか。そのようなことも検討してはどうか。
事務局	ご意見として承る。
事務局	2) 無料乗車キャンペーンについて 説明
平田委員	昨年の実績はどうか。
事務局	昨年度、平成 27 年 1 月 25 日、第 4 日曜日に実施をし、その日の 1 日のふれあいバス、コミュニティバス合わせた利用者数が 899 人。同月第 2 日曜日の利用者数が 218 名。単純に比較すると 4 倍以上の方に乗っていただいている。 周知も進んで、乗っていただくきっかけとしては、成果がでていっているのではないかと認識している。
原田委員	無料乗車キャンペーンの広報の際に、高齢者免許証返納の広報も行ってはどうか。
事務局	無料乗車キャンペーンの広報は市の広報誌と各地区コミュニティ運営協議会の広報誌への掲載を考えている。高齢者免許証返納の掲載について担当課と協議していく。
石松会長	平成 28 年 1 月 24 日、終日、ふれあいバス、コミュニティバスの全路線を無料とすることでよろしいか。
委員	承認
事務局	3) 公共交通網形成計画の策定及び活性化再生協議会の立ち上げについて 説明
原口	計画を策定するのは非常に望ましいことだと思う。資料の中に「憲法」という表現があるが、このような表現をするものなのか。
事務局	他資料を参考に作成しており、意味としては今まで明確でなかったバス停設置の基準等を整理するというものである。
貫委員	これから宗像市でまちづくりの計画ができるということか。
事務局	おっしゃるとおり。現在立地適正化計画を策定中である。
貫委員	立地適正化計画などのまちづくり計画を踏まえて、地域公共交通網形成計画を立案するということか。
事務局	まちづくりとネットワークで 1 セットなので、立地適正化計画でも交通についてふれていかないといけないし、網計画でもまちづくりについてふれないといけないと思っている。
平田委員	委員の案として、利用者が 1 名となっている。地域公共交通会議には 3 名から減員になるのか。
事務局	利用者の意見は大切であることから、計画策定時にはアンケート等いろんな手法で収集を検討したい。協議会の委員としては参加いただくかどうか、参加であれば何人か、地域公共交通会議との兼ね合いも考えながら検討していく。
飛鷹委員	ふれあいバス、コミュニティバス事業は市から多額の補助金を投入しており、も

	っと利用していかないといけない。それには気軽に乗れること、乗り継ぎがスムーズに行くことが重要だと思う。全国で様々な自治体が様々な取り組みをされていると思うが、それを参考に、難しいとは思いますが、皆で知恵を出し合って良い方向に持っていけたらと思う。
事務局	おっしゃるとおり全国で持続可能な公共交通について、試行錯誤しながら様々な取り組みが行われている。福岡県、運輸局の知恵をかりながら、また、委員の皆さまに審議いただきながら、宗像市においてどのような仕組みが望ましいのかを模索していきたいと思っている。
森委員	協議会は理念に基づいて、全体像を構想しようというもの。地域公共交通会議は、むしろ実務。メンバーが重なることについてどうお考えか。
事務局	協議会は実施主体にもなる。地域公共交通会議との兼ね合いも考えながら、構成員、会議の開催日時など検討していく。
原代理	この活性化協議会を立ち上げると、今予定されている網形成計画の調査事業をコンサルと契約することになると思うが、予算の範囲内で上限 2000 万円まで補助を活用できる。あとはフィーダー系（幹線系統の枝葉）の補助を受けられるというメリットがある。
事務局	今後のスケジュール等について 説明
会長	法定協議会のスケジュールはどのようになるか
事務局	来年度協議会発足、1年間かけて計画を策定する予定。
原口委員	路線等について2年に1度の改定に向けて、変更の前年8月に案を固めるということだが、コミュニティの役員改選等のタイミングによっては、意見を反映できないのでは。昨年会長に就任した際にそのように感じた。また、路線等は随時変更できるとのことであったが、時刻表等ができてしまうと、意見するのは難しい。
事務局	昨年度までは諸事情あり、毎年変更していた。しかし、住民への周知等を考えると2年ではなくもっと長いスパンでの変更が望ましいと考えたが、地域の意見等も踏まえ2年での改定としている。スケジュールとしては、改定の前年の11月に本会議において審議、承認をいただき、各事業者より運輸局へ申請をしている。現在2~3ヶ月間隔で、各コミュニティ運営協議会へ地区を運行しているコミュニティバスの乗車数をメールしており、その中で、来年8月までに路線等の案を決定いただくようお願いしている。また、コミュニティ運営協議会の役員交代の時期である4~5月には、引継ぎをしていただくようこちらから働きかけるようにしたい。
原口委員	2年に1度ではなく、急な変更は可能か。
事務局	委員おっしゃられたとおり、時刻表やバス停について費用をかけて変更しているので正直難しい。ただし、地域の事情もあることから随時相談いただき検討させていただきたい。

早川委員	変更や申請をする際には事前に各コミュニティのバス運行委員会等に話がくる。そのつながりをしっかりしておけばいいのではと思う。
峯委員	現在の吉武路線では、行きに乗車できるバス停が帰りに降車できない状況で困っている。コミュニティ運営協議会に要望はしているが、なんとかしていただきたい。
事務局	吉武の話は市でも認識している。吉武地区コミュニティ運営協議会にも話をしており、今後、市も知恵を出しながら住民が利用しやすい路線を考えていきたい。
平田委員	コミュニティには早め早めに路線の検討について促していただきたい。また、コミュニティでは、バスを利用したことのない方がバス路線を検討しているような状況もある。
事務局	コミュニティへの周知について承知した。コミュニティの検討委員のバス乗車についても検討する。
会長	3ヶ月間隔で各コミュニティにメールしているとのことだが、毎月にはできないか。
事務局	毎月メールすることとする。
会長	まず事務局として、都度、各コミュニティ運営協議会の事務局長なり会長なりをお願いして、今の意見を反映させたなんらかの動きを促すよう対応してほしい。
事務局	承知した。
森委員	先ほどの話にあったように、私も実際にふれあいバス、コミュニティバスを利用したことがない。アンケートの際に設問として「路線の変更を望むか」等を追加してはどうか。実際の利用者の声が聞こえるので、実施できるかは別にして、路線を検討する際のひとつの材料となるのではないかと思う。
事務局	アンケートの設問について検討する。
原口委員	ユリックスに直接行く便を検討いただけないか。
森委員	以前試験運行をして、利用者が少なく廃止になったと記憶している。
事務局	おっしゃるとおり試験運行の結果、廃止した経緯がある。しかしながら、今後の公共交通を考えるうえでのご意見として頂戴する。
会長	最後に副会長一言お願いします。
副会長	バスの報告資料を見ても利用者は増加しており、今後ますますこのバスも必要になってくると思っている。先ほど委員の方がおっしゃっていたが、良い事例というのはおそらくないと思う。良いという意味はいろいろあるが、一つは赤字でないということ。しかし基本的には公共交通は赤字になる運命。ヨーロッパでも実際そうで、ヨーロッパの場合は、既に政府が覚悟を決めて国が補助金を出すのが当たり前という感覚になっている。 日本の場合はまだそれになじんでおらず、高齢化社会になって、地方自治体が公共交通をどうするかということで、ばたばたしているというのが現状だと思う。私もほかの幾つかの自治体の交通関係に参加しているが、どこも似たようなもの

だと思ふ。

公共交通は皆さんに幅広く利用していただきたいが、やはり幾つか限界はある。様々な不満を一つ一つすくいながらやっていくのがこれからの我々の仕事だろうというふうに思っている。

それと、宗像市に住んでいる方々が、どういう施設、あるいは、場所に要求があるかというのを少し知っておく必要があるというふうに思う。

バスに限らず宗像市に住んでいる方の意識調査というか、そういうものを調べておく必要があると思う。

それによってどこに皆さん来たがっているかとか、例えば買い物が非常に重要だとかということがわかってくると思う。

そういうことがわかると今度は、その施設がどういう配置になっているかということを知っておくべきだろうと思う。

そのためには、宗像市が考えているまちづくりというプランを、まず、我々も勉強させていただきたいというふうに思う。

特に、まちづくりで、今からの高齢者にとって都合のいいのは、比較的コンパクトに施設をつくっておくのがいいだろうと。

1番良い例が多分クリエイトあたり。クリエイトから、赤間駅にかけて、いろいろ整備をしているが、そこに買い物するところや病院が揃っているので核になるのかなと思っている。

そういうものを勉強しながら、交通計画を立てていけたらなというふうに思っている。